

b ■ 2019 年度 研究ブランディング事業年次計画進捗報告書

※全体でA4 2頁以内に記載して下さい。

(行間は各自で調整下さい。)

講座・部門名：小児科学講座

研究代表者：金子 一成

2019 年度実施項目

1. 研究目標 (提出計画書に基づき記載)

- 小児の食物アレルギーに対する経口免疫療法が腸内細菌叢に及ぼす影響の検討

2. 2019 年度研究進捗・成果 (論文、学会発表を含む)

2019 年度は当初は附属病院アレルギーセンターの小児部門で先進的治療として行っている「食物アレルギーに対する経口免疫療法」で治療の奏効した(食物アレルギーに対する耐性を獲得した)小児の便で腸内細菌叢の解析を行う予定であった。しかし、前年度の研究目標である食物アレルギーの小児患者における腸内細菌叢の異常を明らかにするための次世代シーケンサーを用いた細菌特異的 16SrRNA のメタゲノム解析をする症例数が少なかつたため、2019 年度も引き続き対象患児の検体採取に努めた。

現在までに検体を採取した対象患児は 6 か月から 12 歳までの鶏卵アレルギー小児患者 20 例で男児 15 例、女児 5 例、年齢中央値は 2.8 歳(四分位範囲 1.6-6.2)である。現時点で、対照小児患者の便検体に対して前処置を行い、メタゲノム解析をする準備中である。また対照として年齢、性別をマッチさせた健常小児検体の採取を行っている途中である。

3. 2019 年度ブランディング目標 (提出計画書に基づき記載)

- 関西医科大学附属病院アレルギーセンターにおいて、小児の食物アレルギーの腸内細菌叢の研究を実施していることを広く周知する。

4. 2019 年度ブランディング活動進捗・成果 (メディア、その他)

2019 年 5 月から 6 月にかけて外来医長と病棟医長が附属病院の診療圏内の小児科診療所 50 箇所以上に附属病院アレルギーセンター小児部門で食物アレルギーの治療を行っていることを宣伝する外来表を作成し訪問している。また 2019 年 11 月 30 日に小児科が主催している病診連携の研究会である第 22 回京阪こどもカンファレンスで赤川翔平助教により「腸内細菌叢の異常とアレルギー疾患との関係」の演題名で近隣開業医に対して、研究内容について説明をしている。

5. 自己評価（達成度、改善点など）

2019年度の研究は当初は食物アレルギー全般について検体収集と腸内細菌叢解析をする予定であったが、受診患者数が多い鶏卵アレルギーに限定して研究を進めることに変更している。また検体数を増やすためには紹介患者数の増加が必須であるが、外来医長、病棟医長による近隣診療所訪問により食物アレルギー紹介患者が増えているためブランディング活動の成果が出ていると考えている。